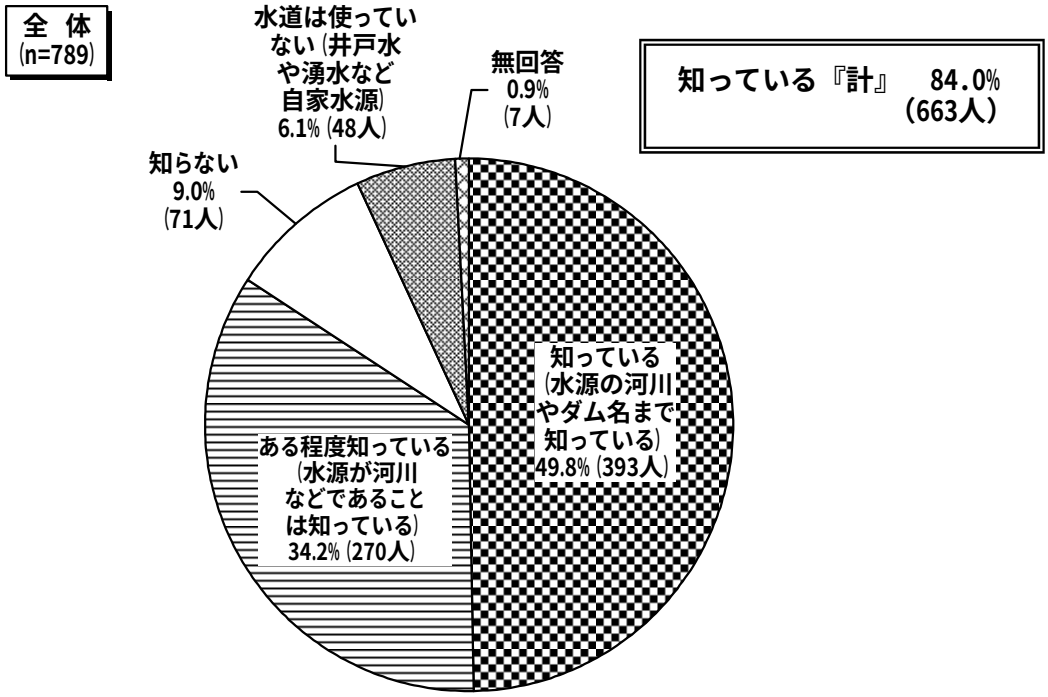
2　水に関する意識について

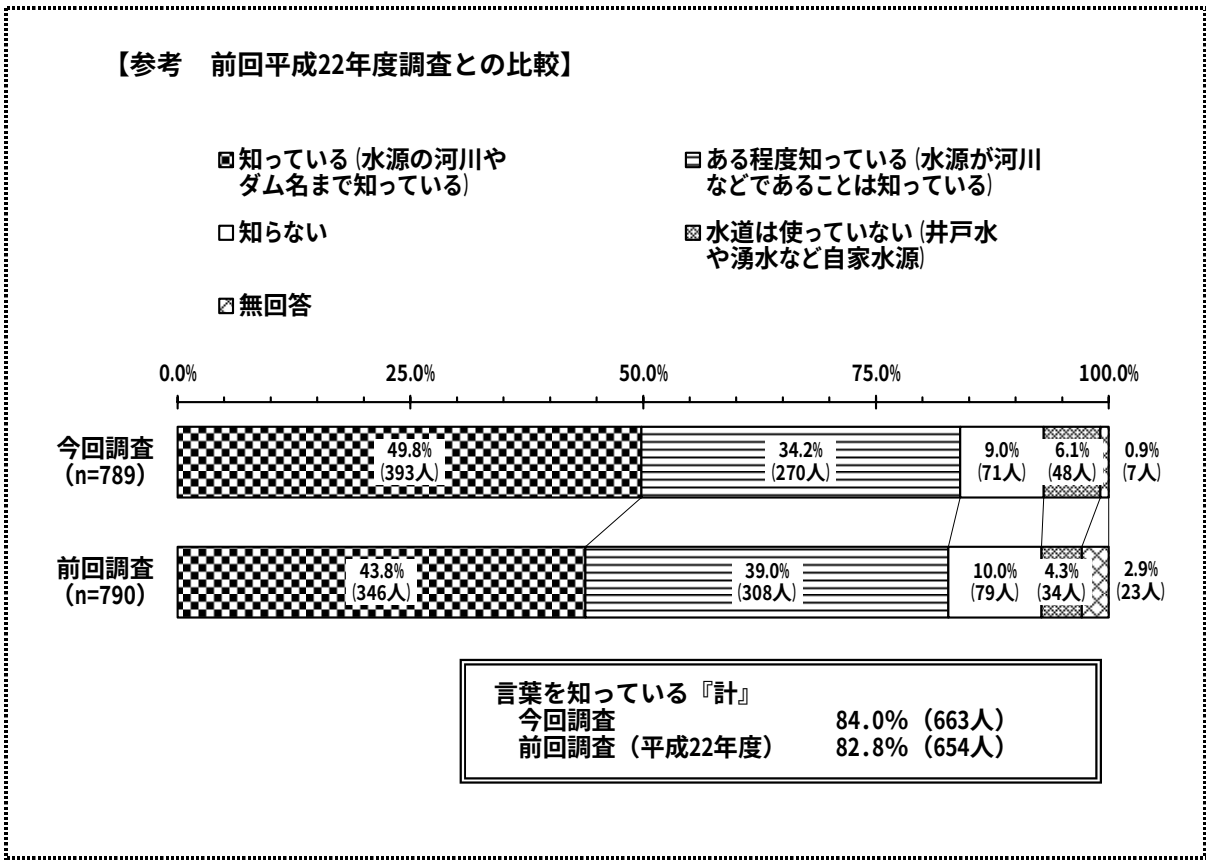
⑴ 水道の水源の認知状況

問５　　あなたの使っている水道の水源は何かご存知ですか。
あてはまるものに１つに○をつけてください。



水道の水源の認知状況は、「知っている（水源の河川やダム名まで知っている）」人が49.8%で、５割弱になっている。これに「ある程度知っている（水源が河川などであることは知っている）」（34.2%）を合わせた『知っている』計の割合は84.0%で、８割を超えている。

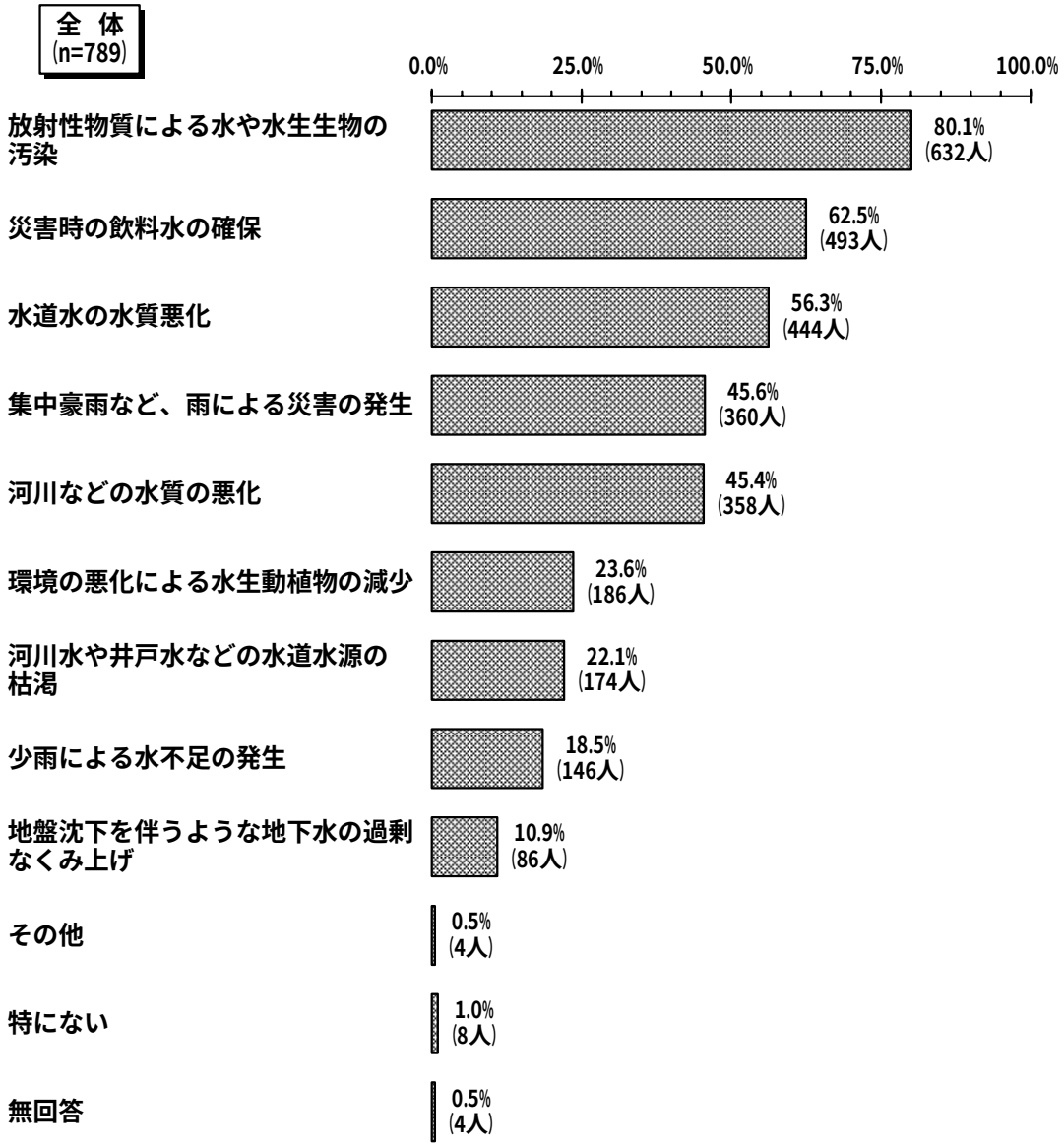
一方、「知らない」は9.0%、「水道水は使っていない（井戸水や湧水など自家水源）」は6.1%となっている。



「知っている（水源やダム名まで知っている）」（今回調査49.8%、前回調査43.8%）の割合は、今回調査の方が高くなっている。

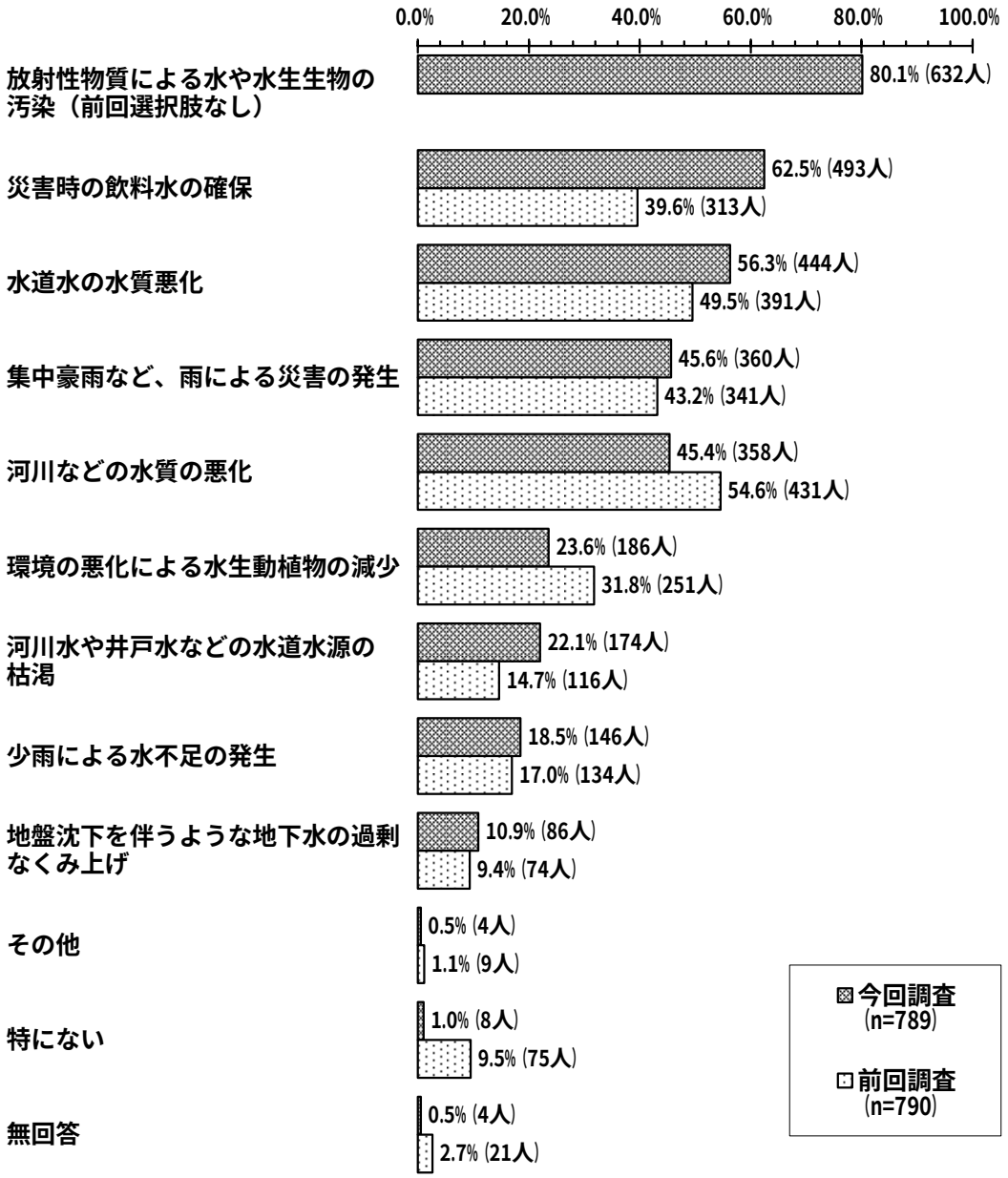
⑵ 水についての心配や不安

問６　あなたは、水についての心配や不安を感じたことはありますか。
あてまるものにいくつでも○をつけてください。



水について感じたことがある心配や不安は、「放射性物質による水や水生生物の汚染」（80.1%）が最も多く、８割となっている。次いで「災害時の飲料水の確保」（62.5%）が６割強で続き、以下、「水道水の水質悪化」（56.3%）、「集中豪雨など、雨による災害の発生」（45.6%）、「河川などの水質の悪化」（45.4%）、「環境の悪化による水生動植物の減少」（23.6%）、「河川水や井戸水などの水道水源の枯渇」（22.1%）の順となっている。

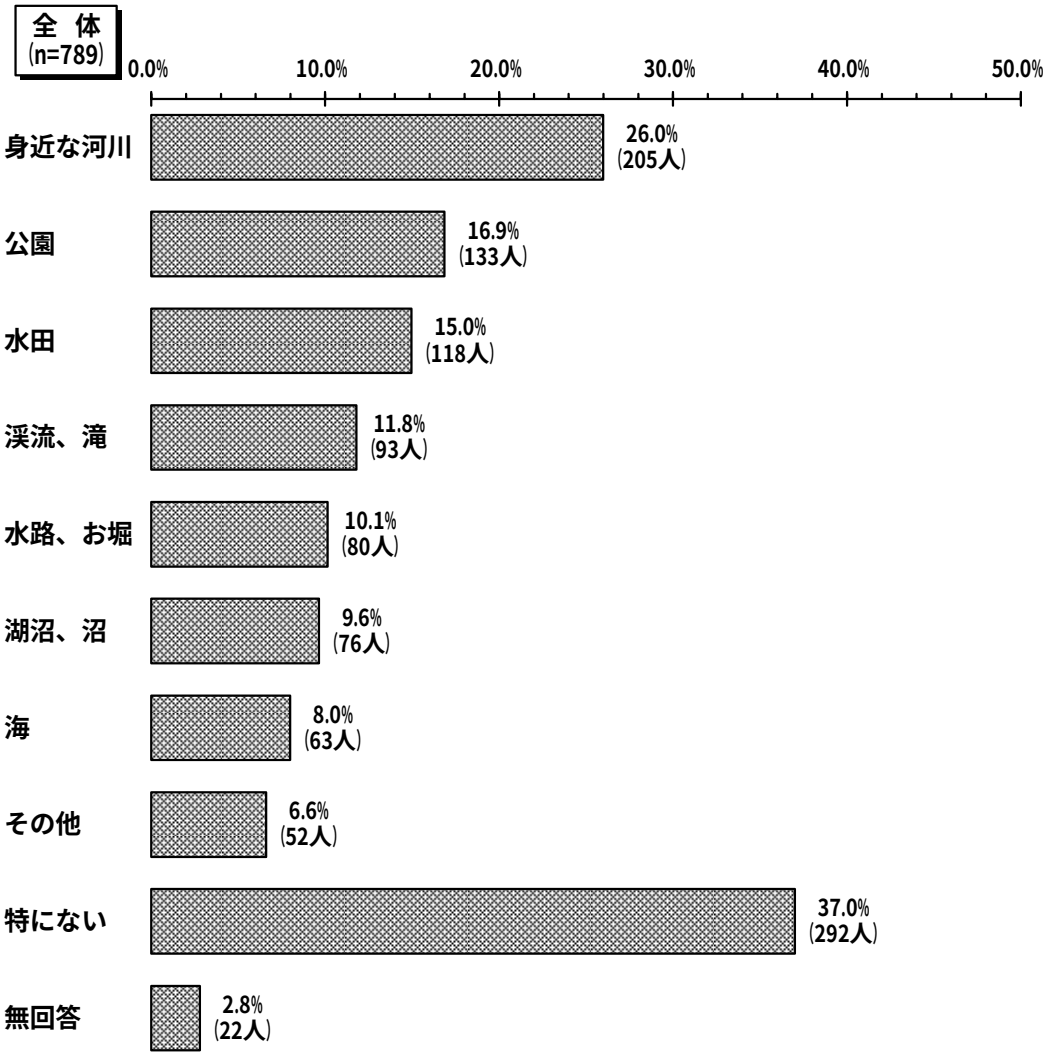
【参考　前回平成22年度調査との比較】



前回調査は「河川などの水質の悪化」の割合が最も高かったが、今回調査では、新設された選択肢「放射性物質による水や水生生物の汚染」が最も高く、２位以下も前回調査とは順位に変化が見られる。

⑶ 震災後、水に親しむ場所

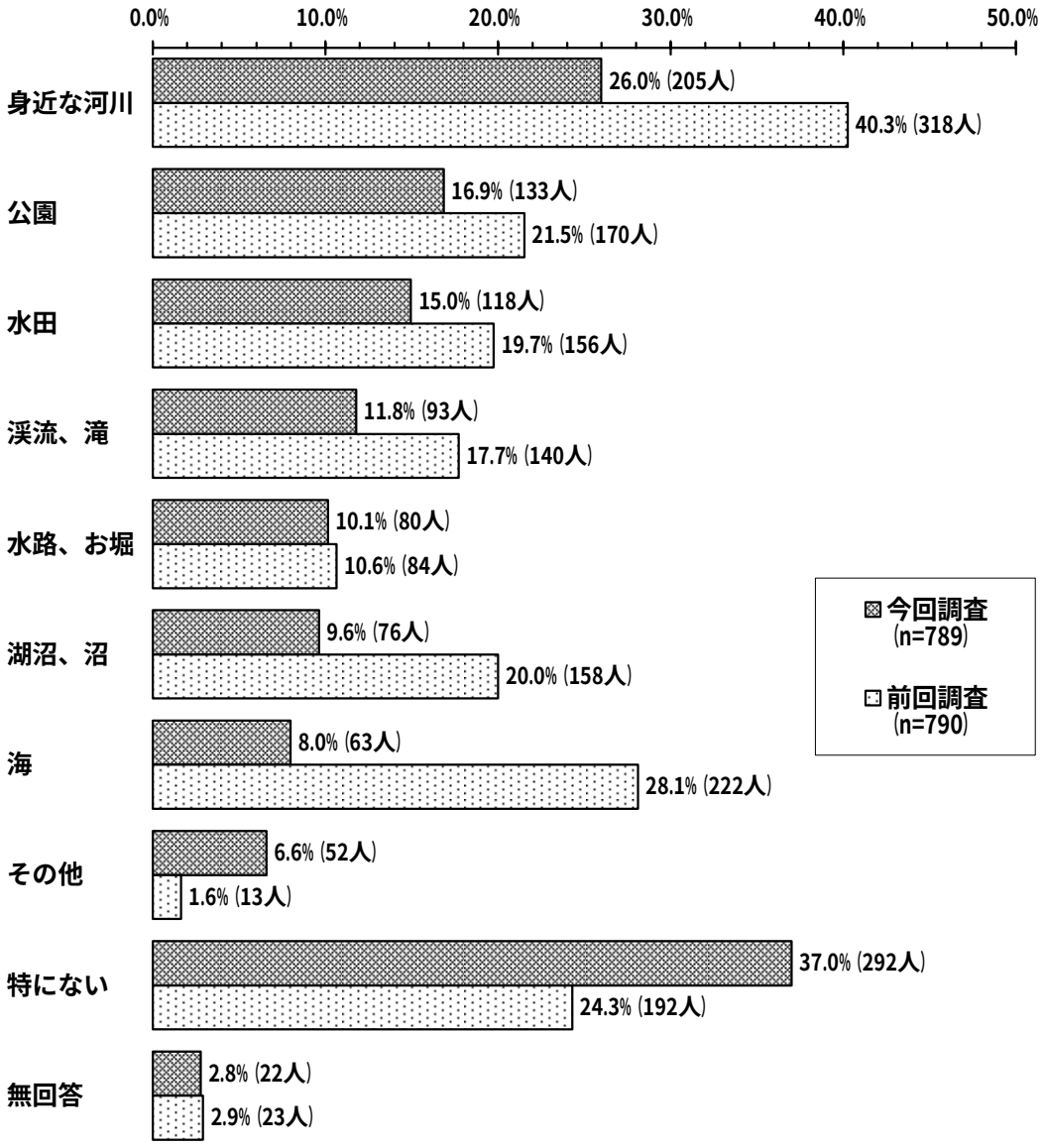
問７　あなたは、震災後、どのような場所で水に触れて水と親しんでいますか（水遊びや魚釣りなどを含む）。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



水に触れて親しんでいる場所は「身近な河川」（26.0%）が最も多い。次いで「公園」（16.9%）が続き、以下「水田」（15.0%）、「渓流、滝」（11.8%）、「水路、お堀」（10.1%）、「湖沼、沼」（9.6%）、「海」（8.0%）となっている。

また、「特にない」が37.0%となっている。

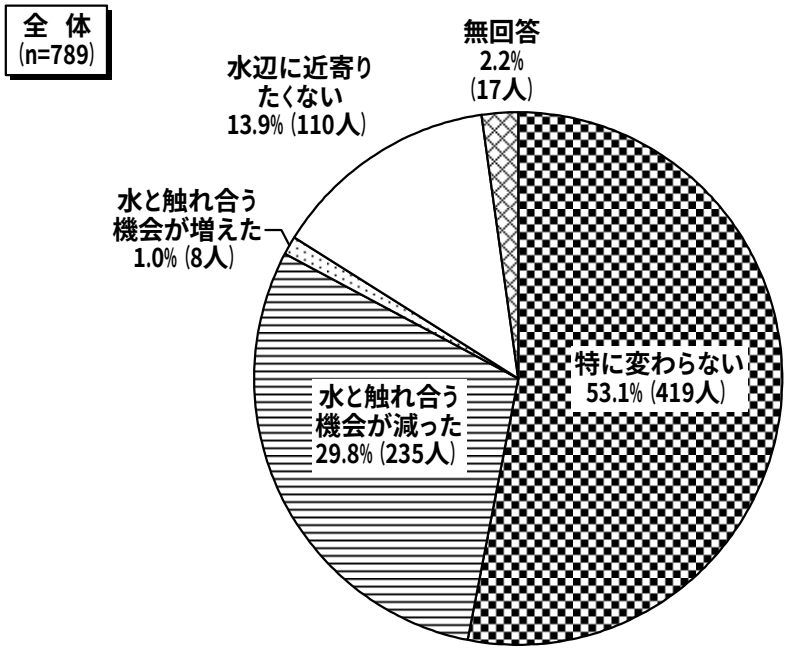
【参考　前回平成22年度調査との比較】



ほとんどの項目で前回調査に比べて割合が低くなり、順位にも変化が見られる。「海」「身近な河川」「湖沼、沼」は特に割合が低くなっており、一方、「特にない」の割合が高くなっている。

⑷ 水との触れ合い方の変化

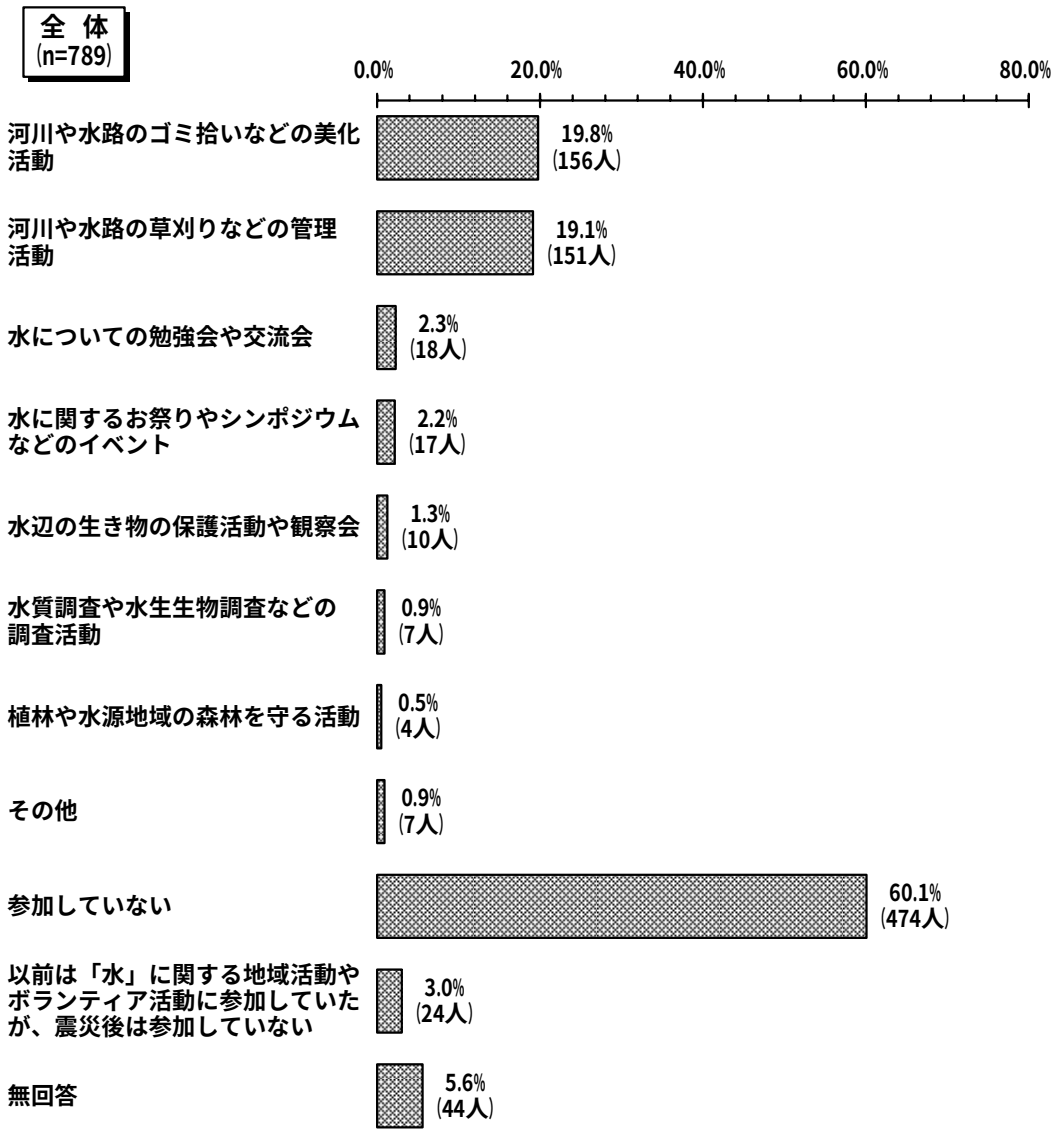
問８　あなたは、震災により、水との触れ合い方に変化はありましたか。
（水遊びや魚釣りなどを含む）
あてはまるものに１つに○をつけてください。



水との触れ合い方は「特に変わらない」（53.1%）と回答した人が最も多く、５割強となっている。「水と触れ合う機会が減った」が29.8%、「水と触れ合う機会が増えた」が1.0%、「水辺に近寄りたくない」が13.9%となっている。

⑸ 「水」に関わる活動への参加状況

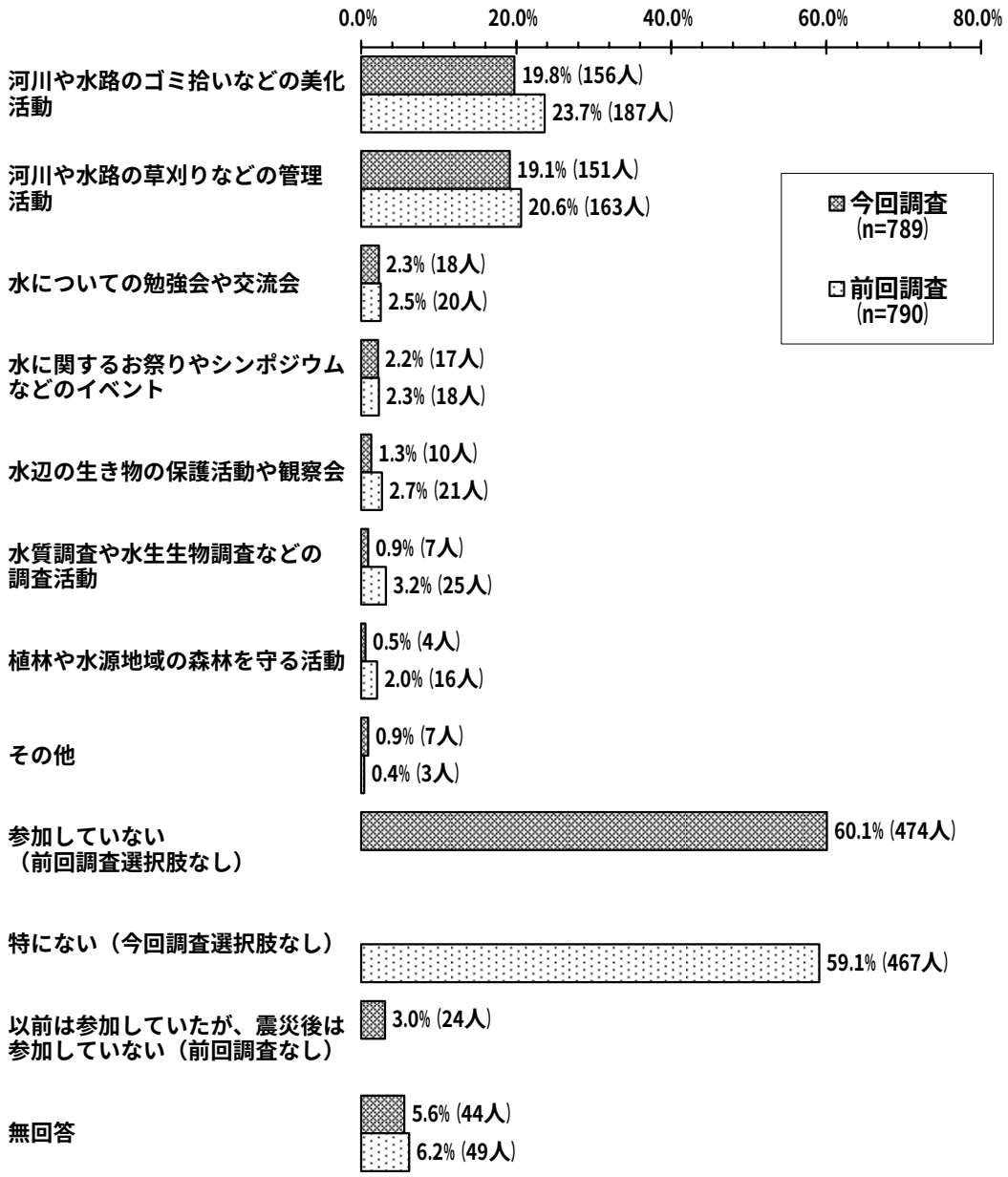
問９　あなたは、震災後、「水」に関わる地域活動やボランティア活動に参加していますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



「水」に関わる活動への参加状況は「参加していない」（60.1%）が最も多く、６割となっている。

参加している活動は、「河川や水路のゴミ拾いなどの美化活動」（19.8%）と「河川や水路の草刈りなどの管理活動」（19.1%）が２割弱となっているが、その他の項目はいずれも割合がわずかである。

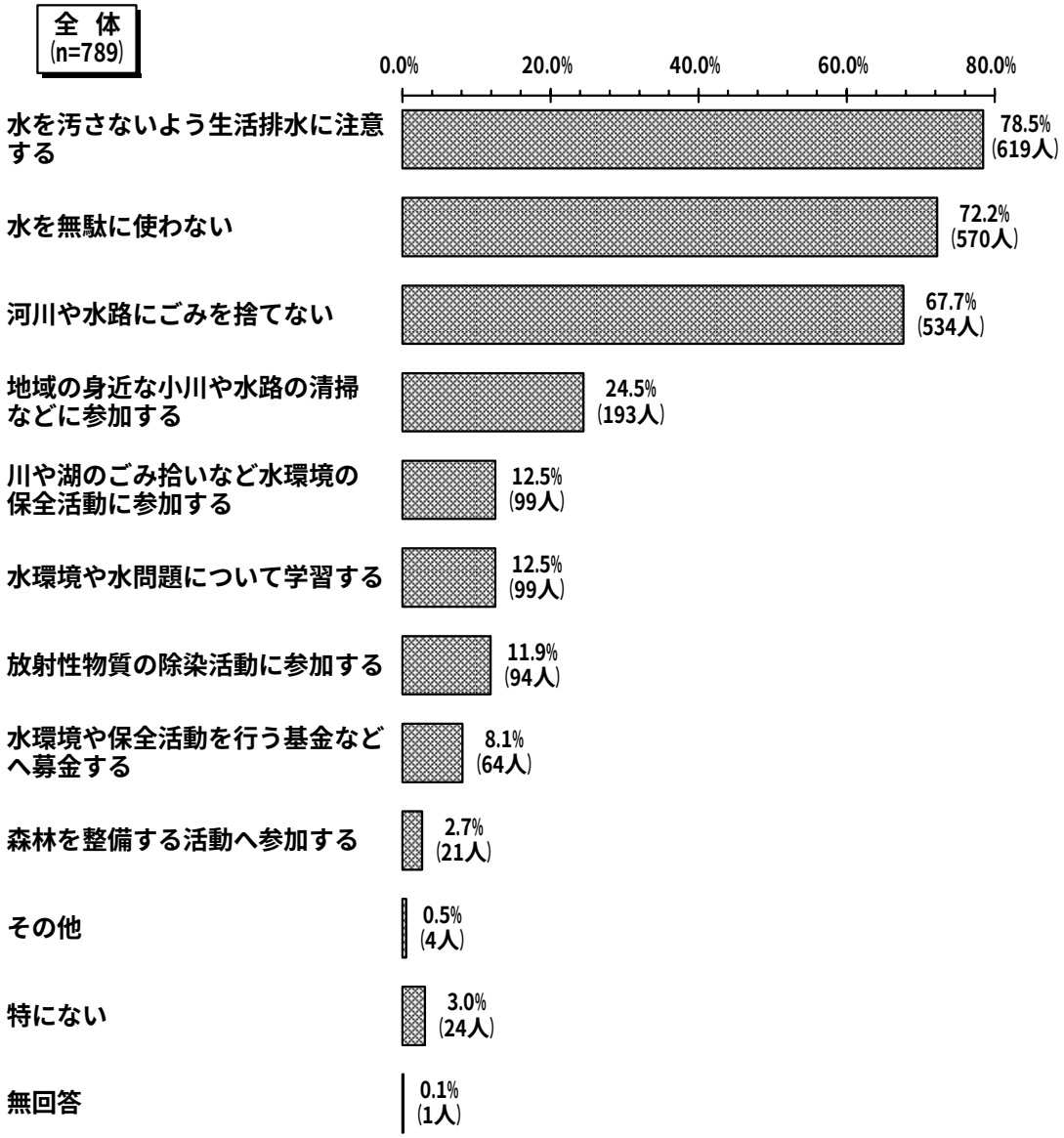
【参考　前回平成22年度調査との比較】



選択肢に変更があるが、前回調査と比べ、「水」に関わる活動への参加割合が全体的に減少している。特に、「水辺の生き物の保護活動や観察会」と「水質調査や水生生物調査などの調査活動」、「植林や水源地域の森林を守る活動」は減少割合が大きい。

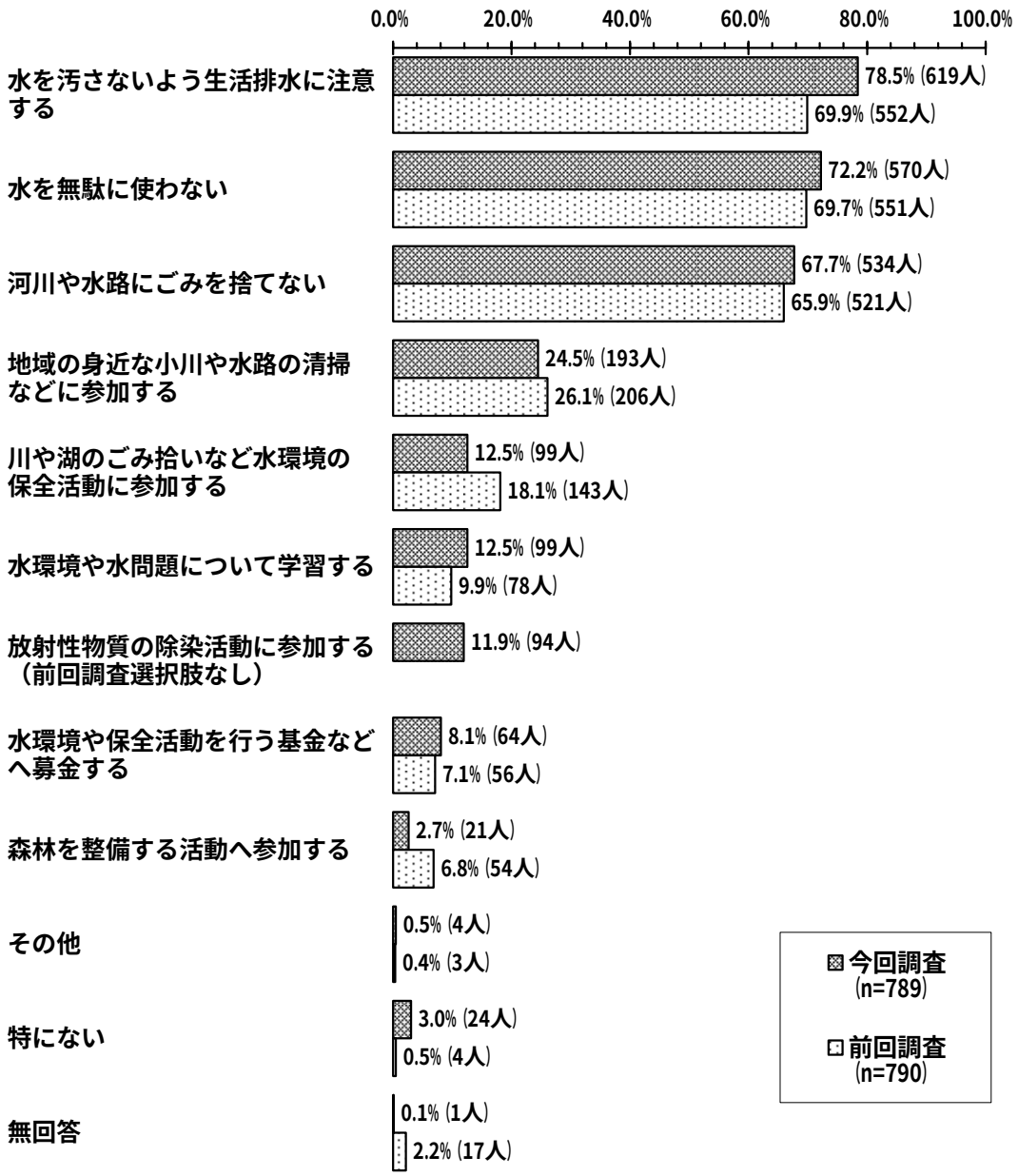
⑹ 「水」を利用していくために取り組みたいこと

問10　あなたは、将来にわたって水を利用していくために、自分で取り組みたいと思っていることがありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



「水」を利用していくために取り組みたいことは、「水を汚さないよう生活排水に注意する」（78.5%）が最も多く、次いで、「水を無駄に使わない」（72.2%）、「河川や水路にごみを捨てない」（67.7%）が続いている。以下、「地域の身近な小川や水路の清掃などに参加する」（24.5%）、「川や湖のごみ拾いなど水環境の保全活動に参加する」「水環境や水問題について学習する」（各12.5%）、「放射性物質の除染活動に参加する」（11.9%）、「水環境や保全活動を行う基金などへ募金する」（8.1%）、「森林を整備する活動へ参加する」（2.7%）となっている。

【参考　前回平成22年度調査との比較】



今回調査、前回調査ともに、「水を汚さないよう生活排水に注意する」の割合が最も高く、今回調査は前回調査に比べて、その割合も増加している。

また、「森林を整備する活動へ参加する」の割合は、前回調査と比べ、減少している。